

平成 29 年度実務実習教科担当教員会議 議事録

1. 開催日：平成 29 年 9 月 1 日（金）
2. 場 所：名城大学薬学部 八事キャンパス 3 号館 2 階 201 室
〒468-8503 名古屋市天白区八事山 150
3. 出席者：78 名（招待者 1 名を含む）
4. 本会議
 - (1) 開催の挨拶 名城大学 野田幸裕
 - (2) アンケート集計報告および質疑応答（配布資料）
報告 名城大学 野田幸裕
 - (3) 臨床系教員連絡会からの報告
報告 金沢大学 松下 良 先生
 - (4) 第 102 回 薬剤師国家試験問題検討委員会報告（配布資料）
報告 昭和大学 加藤裕久 先生
 - (5) 講演「改訂モデル・コアカリキュラムに準拠した実務実習支援 WEB システムの準備状況」
(配布資料)
演者 薬学教育協議会 WEB システム検討委員会・
薬学共用試験センター 木津純子 先生
 - (6) 本会議の今後の進め方および次年度以降の開催について
報告 名城大学 野田幸裕
 - (7) 閉会の挨拶 名城大学 野田幸裕
5. 会議報告

(1) 開催の挨拶

本年度の委員長である野田幸裕（名城大学薬学部）による開催の挨拶後、これまで開催されていなかった経緯と今後の開催についての説明があった。すなわち、臨床系教員連絡会議が平成 18 年に設立されて以来、実務実習教科担当教員会議はここ数年間開催されていない。臨床系教員連絡会議では実務実習を含む関連教科に関わる事項について、年 2 回（日本医療薬学会や日本薬学会年会）にて開催したシンポジウムやワークショップを通じて情報提供や協議をしている。約 80%の教員が両会議に所属していることから、臨床系教員連絡会議と共同して実務実習教科担当教員会議を進めるよう調整していることが説明された。

(2) アンケート集計の結果、報告および質疑応答

全国 74 大学に実施されたアンケート結果が、名城大学 野田委員長より報告された。アンケートは、実務実習教科担当教員会議の活動を組み立てるために、意見や要望を得る非常に重要な手段として実施された。全国 74 薬系大学中、68 薬系大学から回答（回収率 91.9%）された。開催時期について（複数回答可）、日本薬学教育学会 69%（開催前：31 件、中：15 件、後：1 件）、日本医療薬学会 84%（開催前：30 件、中：24 件、後：3 件）、日本薬学会 91%（開催前：30 件、中：30 件、後：2 件）であり、多くの教員が日本薬学会の会期前あるいは会期中の開催を希望していた。本教員会議にて取り上げてほしいテーマなどは、①改訂コアカリに関する事前学習の実施や評価方法とその研修会について、②改訂コアカリでの実務実習の運用方法や実習計画書について、③臨床系教員として実務能力の維持向上、キャリアアップのために実施すべきことについて、④臨床系教員として臨床現場との交流について、⑤次世代の臨床系教員の育成について、⑥基礎系教員の実務実習における関わりなどであった。その他、全体を通しての意見として、①臨床系教員連絡会と実務実習教科担当教員会議との相違や統合について、②病院・薬局実習の制度や内容、評価に関する本会議の役割の明確化、③CBT、OSCE、および実務実習など多岐に関わるので各大学担当者名簿の充実とメーリングリストの作成などがあった。

(3) 臨床系教員連絡会からの報告

臨床系教員連絡会について、金沢大学 松下 良世話人代表から実務実習担当教員会議の現状と実務実習教科担当教員会議との連携について説明があった。すなわち、第 21 回臨床系教員連絡会議（平成 28 年 9 月 17 日世話人会開催：国立京都国際会館）および第 22 回臨床系教員連絡会議（平成 29 年 3 月 24 日世話人会および会議・講演会開催：東北大学薬学研究所）にて意見交換したところ、本会議と統合するかどうかは、設立経緯が異なること、会員もすべて同じではないが、多くは兼任していること、予算などがあること、実務実習教科担当教員会議と開催目的が重複することが多いことからメリットを考え、最初は共同開催しながら、逐次意見を伺いながら実施していくことで意見が一致したことが説明された。したがって、本会議においても当面は共同開催をしていくことが合意された。

(4) 第 102 回 薬剤師国家試験問題検討委員会報告

第 102 回 薬剤師国家試験について、実務系の問題検討委員会の昭和大学 加藤裕久委員長から第 102 回薬剤師国家試験問題検討委員会（実務部会）（平成 29 年 5 月 13 日）および薬剤師国家試験問題検討委員会（平成 29 年 6 月 9 日）での報告書に基づいて説明と解説がなされた。総合評価として、一部容易すぎる問題や逆に習っていないため難解な問題があったが、全体的に難易度は標準的であったと報告された。複合問題では、実務実習への取り組み方が合否に大きく影響する様な実臨床を反映した問題が多かった。限られた文章で患者背景

を説明するため、解答時に疑問が挙がるような問題もあったことも報告された。参加者から、多くの疑義を提案しても次年度の問題に反映されないのではないかとの質問があり、直近での国家試験問題に反映されなくても次々年度などには反映されることもあるので、根気よく問題について意見やコメントするようにと回答された。

- (5) 講演「改訂モデル・コアカリキュラムに準拠した実務実習支援 WEB システムの準備状況」
「改訂モデル・コアカリキュラムに準拠した実務実習支援 WEB システムの準備状況」と題して、薬学教育協議会 WEB システム検討委員会・薬学共用試験センター 木津純子先生より、改訂モデルコアカリにおける実務実習においては大学と施設の連携、薬局実習と病院実習の連続性、OBE の評価等が重要であることが説明され、その WEB システムの準備状況について紹介された。平成 29 年 8 月に WEB システム開発大学や開発企業を対象として、トライアル等についてアンケート調査しており、トライアル結果を受けてシステムを改修し、平成 31 年 2 月（平成 30 年度実務実習第 I 期）より運用開始予定であることが説明された。これに基づき参加者より、多くの意見が出された。

- (6) 次年度以降の開催について

名城大学 野田幸裕委員長から、次年度の委員長は名城大学 野田幸裕が引き続き担当し、臨床系教員連絡会議の世話人代表の松下 良先生と以下の会期前あるいは会期中に共同開催する予定であることが説明された。

日本薬学会第 138 年会 平成 30 年 3 月 26 日～28 日 金沢市内

日本薬学会第 139 年会 平成 31 年 3 月 28 日～30 日 東京ビッグサイト

- (7) 閉会の挨拶 名城大学 野田幸裕

以上